

# ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組構築

－日米家庭科教科書分析を手がかりとして－

丸山 実子\*

河崎 智恵\*\*

奈良教育大学大学院教育学研究科 専門職学位課程教職開発専攻\*

奈良教育大学大学院教育学研究科教職開発講座\*\*

Developing a Framework for a Program of Life-Career Education

- From an Analysis of Home Economics Textbooks in Japan and the USA -

Jitsuko Maruyama

Tomoe Kawasaki

School of Professional Development in Education, Nara University of Education

<あらまし> 本研究では、今後のライフキャリア教育の実践をめざし、具体的な教材である日米家庭科教科書を分析し、その結果をもとに授業プログラムの枠組みを構築することを目的とする。具体的には、日米の中等教育家庭科教科書を、ライフキャリアに関する能力領域（河崎, 2011）「自己理解」「人間関係」「意思決定」「職業開発」「生活実践」「キャリア統合」の6つの領域より分析した。日本の家庭科教科書は「自己理解」「人間関係」「生活実践」に重点が置かれ、前半では「自己理解」「人間関係」、後半では「生活実践」を学ぶようになっていた。米国の家庭科は、日本で重点が置かれていた内容に加えて「意思決定」「就業開発」「キャリア統合」の能力領域も含まれており、総合的にライフキャリアに関する能力育成を目指しているという特徴が認められた。得られた知見を基にライフキャリア教育における授業プログラムの枠組み（案）を提示した。

<キーワード> キャリア教育 ライフキャリア 家庭科教科書

## 1. 研究の背景と目的

学校教育におけるキャリア教育は、2011年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。キャリア教育で育む4つの能力として、①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力が提示され、キャリア教育と職業教育の関係性および基本的方向性が示されている。

キャリアに関する先行研究において Super (1980) は、「キャリアとは生涯過程を通して、ある人によって演じられる諸役割の組み合わせと連

続」としている。また、生涯過程（ライフステージ）と、生涯を通して演じる諸役割（ライフロール）の組み合わせを虹に見立てて「ライフキャリアレインボー」とした理論を提示している。

さらに Hansen (1997) は、今後のキャリアを教育することにおいて、仕事と人生を統合して提示する必要性を Integrative Life Planning (1997) の中で示唆している。Hansen は、「L」で始まる4つの要素として、「Labor (仕事)」、「Learning (学習)」、「Leisure (余暇)」、「Love (愛)」を取り上げ、これら4つの要素がうまく組み合わせられ統合される「統合的人生設計」を基に、「家族と仕事の結合は、キャリアプランニングというキルトにおいて、あるべきところに見当たらないピースである」と述べている。これは、人生の中で、仕事だけを切り離すことはで

きないことを意味し「ライフキャリア」としての視点を強調するものである。これらの先行研究をふまえ、本研究においては、キャリアを「ライフキャリア」として広義で捉えることとする。

既に、河崎（2011）は、「個の発達」と「関係性の発達」の両側面より、共生的なキャリア発達をめざす「ライフキャリア教育」のカリキュラムモデルを提案している。そして「自己理解」「人間関係」「意思決定」「就業開発」「キャリア統合」「生活実践」の6つの能力領域を示している。

しかしながら、具体的な「ライフキャリア教育」の実践については未だ課題となっている。そこで本研究では、「ライフキャリア教育」の実践に向けて、ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組みを構築することを目的とする。

## 2. 研究方法

前述のように、「ライフキャリア教育」のカリキュラムモデルは提案されているものの、具体的な教育実践は課題となっている。そのため、具体的な教材である教科書を手がかりとして、プログラム枠組みを検討することとした。

既に家庭科教育では、日米の教科書における内容分析が重ねられている。片田江（2000）によれば、米国の家庭科ではキャリアの学習が重視されている一方、日本の家庭科教科書では、家庭経営における職業労働、生活時間における労働時間の学習において扱われているに過ぎず、キャリアという視点が乏しいことが指摘されている。また、河崎（2000）は、米国家庭科教科書において、「キャリア」は職業に限定されずライフキャリアとして広義の概念で捉えられ、家庭生活・職業生活・地域生活を視野に入れたキャリア教育が行われていることを明示している。さらに、磯崎・家城（2006）は、米国ナショナルスタンダード公表後に出版または改定された教科書を取り上げて、分析を行っている。そして、自己実現のキャリアを形成していくための意欲を喚起し、必要な態度・能力を育てる必要性を示唆している。

これらの先行研究をふまえた上で、本研究では、自己実現と他者支援（ケア）の両側面より、共生的なアイデンティティ形成をめざそうとする「ライフキャリア教育」（河崎，2011）の能力領域に着目し、日米家庭科教科書を分析し、ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組み構築を試みる。

### 2.1. 分析対象とする教科書

- 分析対象とする教科書は以下に示す3冊である。
- ・中学校「新しい技術・家庭科 家庭分野」（東京書籍）（2012）
  - ・高等学校「家庭基礎」（東京書籍）（2013）

- ・米国家庭科教科書「Shaping Your Future」（Glencoe/McGraw-Hill）（2000）

日本の家庭科教科書は複数社より出版されているが、奈良県と兵庫県において筆者が教育実践に関わっている地域で採択されている教科書（東京書籍）を分析対象にした。

米国の中等学校家庭科教科書は、「実践問題アプローチ」とナショナルスタンダード（1998）を反映した教科書で、オハイオ州等で使用されている「Shaping Your Future」を取り上げることとした。なお、「Shaping Your Future」の理論的背景にある「実践問題アプローチ」とナショナルスタンダードについては、林（2000, 2002）による研究に詳しい。

### 2.2. 分析方法

日米家庭科教科書分析より、ライフキャリアの視点を取り入れるために、ライフキャリアに関する能力領域（河崎，2011）（「自己理解」「人間関係」「意思決定」「職業開発」「生活実践」「キャリア統合」）との照らし合わせを行い考察する。具体的には、「ライフキャリア関連語」を抽出し、その使用回数を数え、3回以上には「◎」、2回以下には「○」として整理した。

## 3. 結果

### 3.1. ライフキャリアモデルの再考

#### 3.1.1. 中学校「新しい技術・家庭（家庭分野）」におけるキャリアの取り扱い

本教科書は、第1章から第4章までの構成になっている。本書の内容を、ライフキャリアの視点から検討した結果を表1に示す。

第1章「わたしたちの食生活」では、現在の自分自身を食から点検することから始まり、食に関する学習、自立を促すための調理実習、食品成分表を基に、健康な体を維持する方法等を学ぶ構成となっている。

第2章「わたしたちと衣生活と住生活」では、身に付ける衣服について計画性をもって着こなす必要性や、着こなしの工夫で住生活も快適に過ごせることを学ぶ。また快適な空間をめざすために、安全との関係についても知識として習得する内容となっている。

第3章「わたしたちの成長と家族・地域」では、幼児から大人になるまでの人間の成長や発達について学習する。

第4章「わたしたちの消費生活と環境」では、サービスを受ける側と消費する側の学びから、消費者として知っておくべき購入方法やルールが取り扱われている。

内容分析より、本書では、1. キャリアガイド

スの要素を踏まえながら、「キャリア統合」とそれに関わる「自己理解」を深めさせ、2. 個人を取りまく他者（家族・友人）についての「人間関係」を学びつつ、生活する上で必要とされる「生活実践」の力を高める、という構成になっており、「自己理解」、「人間関係」、「生活設計」に重点がおかれていた。

### 3. 1. 2. 高等学校「家庭基礎」におけるキャリアの取り扱い

本教科書は、第1章から第9章までの構成になっている。高等学校「家庭基礎」をライフキャリアの視点から分析した結果を表2に示す。各章では、以

下に示すような内容が学習内容として扱われていた。

第1章「自分らしい人生をつくる」では、人は生涯を通して発達するという視点を持ちながら、目標を持って生きることや人生と、それに関連した家族・家庭生活と社会を学ぶ。第2章「子どもと共に育つ」では、子どもの育つ力、親として育つ力から保育環境について学ぶ。第3章「高齢社会を生きる」では、人の一生と高齢期の理解を学ぶ。第4章「共に生き、共に支える」では、生活と福祉の関わりと社会保障についての考え方を学ぶ。第5章「食生活をつくる」では、食生活について、食事と栄養・食品、調理基礎と方法について学ぶ。第6章「衣生活をつ

表1 中学校「新しい技術・家庭（家庭分野）」（東京書籍）におけるキャリアの取り扱い

ライフキャリア領域								
6つの領域		自己理解	人間関係	意思決定	就業開発	生活実践	キャリア統合	
ライフキャリア関連語		「自己理解」 「表現」 「自分について知る」	「コミュニケーション」 「協同作業」 「責任」	「意思決定」 「明確化」 「決定」	「就業・仕事・職業」 「キャリア」 「仕事理解」	「生活」 「経済」 「安全」	「キャリア統合」 「計画」 「管理」	
章	節							
第1章	わたしたちの食生活	1	○			○	○	
		2	○				○	
		3	○					
		4	◎					○
		5	◎					
		6					◎	○
		7	○	◎				
		8	○	◎			○	
		9			◎		◎	
第2章	わたしたちの衣生活と住生活	1	◎	○				
		2	○	○	○			○
		3	○				◎	
		4	◎					
		5	○	○	○		○	
		6					○	
		7	○					
		8					◎	
		9		○			◎	
		10	○					
		11	◎					
第3章	わたしたちの成長と家族・地域	1	○	○				
		2	◎	◎				
		3	○	○				
		4	○	◎				
		5	○	◎	○			
		6	○	◎		○	◎	
		7	◎	○				
第4章	わたしたちの消費生活と環境	1	○					
		2	◎	○	○		○	
		3	○					
		4	◎	○	○			
		5	○					
		6	◎					

表2 高等学校「家庭基礎」(東京書籍)におけるキャリアの取り扱い

ライフキャリア領域								
6つの領域		自己理解	人間関係	意思決定	就業開発	生活実践	キャリア統合	
ライフキャリア関連語		「自己理解」 「表現」 「自分について知る」	「コミュニケーション」 「協同作業」 「責任」	「意思決定」 「明確化」 「決定」	「就業・仕事・職業」 「キャリア」 「仕事理解」	「生活」 「経済」 「安全」	「キャリア統合」 「計画」 「管理」	
章	節							
第1章	家族・社会との共生 (自分らしい人生をつくる)	1	○				○	
		2	◎	◎			○	
		3	○		◎			◎
		4	○	○				○
		5	○	◎			○	
		6	○	◎		○	◎	
第2章	生活の自立 (子どもと共に育つ)	1	◎	◎		◎		
		2	○	◎			○	
		3	○	◎			○	
		4	○			○	◎	
第3章	高齢社会を生きる	1	○	○		◎	○	
		2	◎	○			◎	
		3	○	○		○	○	○
第4章	共に生き、共に支える	1	◎			◎		
		2	○	○		○	○	
		3	○				◎	
第5章	食生活をつくる	1	○	○		○		
		2	○				○	
		3	○				○	
		4	○					
		5	○	○				
		6	○			○	○	
第6章	衣生活をつくる	1	○		○	○		
		2	○				○	
		3	○					
		4	○	○			○	
		5	○			○	○	
第7章	住生活をつくる	1	○			○	○	
		2	○				○	
		3	○	○		○	○	
第8章	経済生活を営む	1	○			○		
		2	○				○	
		3	○				○	
		4	○		○		○	
		6	○	○	○		○	
		7	○		○	○	○	○
第9章	生活を設計する	1	○	○		○	○	
		2	○				○	
		3	○	○			○	

くる」では、被服の役割と入手方法、管理、再資源化することを学ぶ。第7章「住生活をつくる」では、住居の性能と変化や住生活の計画と選択について学ぶ。第8章「経済生活を営む」では、職業生活を設計し、消費生活と意思決定の重要性を学ぶ。第9章「生活を設計する」では、生涯を見通し、生活設計行

い、自立していくため社会を創造することを学ぶ。

本書では、キャリアガイダンスの要素を踏まえた「キャリア統合」とそれに関わる「自己理解」を深めさせ、この個人をとりまく「人間関係」を学ぶ構成と判断できた。さらに生活するうえで必要となる公的な仕組みや法律を知識としながら、「生活実践」

の力を高めていくことを目指していた。中学校家庭科教科書と類似していたが、最後に再度「キャリア統合」でふりかえりながら自立して生きるために社会を創造する順序性になっていた。すなわち、「キャリア統合」の範囲が後半部分に増えるものの、中学校同様「自己理解」、「人間関係」、「生活設計」に重点が置かれていた。

### 3. 1. 3. 「Shaping Your Future」におけるキャリアの取り扱い

第1章から第6章までの構成になっている。本教科書をライフキャリアの視点より分析した結果を表3に示す。各章では、以下に示すような内容が学習内容として扱われていた。

第1章「生活の基盤と構築」では、将来の見通しを立たせ、それに対応するために自分の性格や人との問題解決方法を習得する。その上で、私生活一日

を振り返り、周りの地域社会との関わりについても理解する。

第2章「人間関係スキル」では、効果的なコミュニケーションテクニックから、もめごとの回避方法まで習得する。人間関係は家族、友人、その他の人との関わりがあり、家族と結婚の関係性も学ぶ。

第3章「個人の幸福」では、生きていく上で、健康は大切であり、健康維持法や精神的ストレスとの付き合い方を学ぶ。

第4章「消費者」では、消費者として責任があることを前提に、衣食住の場面それぞれの購入方法と、それに関わり知っておくべきルールを習得する。

第5章「金銭と信販」では、金融におけるの種類とその使用方法、返済の方法を学ぶ。

第6章「キャリア形成」では、職業紹介や職業教育訓練について学び、自身の就業実現をしていく構成になっていた。

表3 「Shaping Your Future」(Glencoe/McGraw-Hill)におけるキャリアの取り扱い

ライフキャリア領域							
6つの領域		自己理解	人間関係	意思決定	就業開発	生活実践	キャリア統合
ライフキャリア関連語		「自己理解」 「表現」 「自分について知る」	「コミュニケーション」 「協同作業」 「責任」	「意思決定」 「明確化」 「決定」	「就業・仕事・職業」 「キャリア」 「仕事理解」	「生活」 「経済」 「安全」	「キャリア統合」 「計画」 「管理」
章	節						
第1章	生活の基盤構築	1	◎		◎		○
		2			○		○
		3		○			○
		4					○
		5	◎			○	
第2章	人間関係スキル	1	◎	◎			
		2		◎	◎		○
		3		◎			◎
		4		◎			◎
		5		◎			◎
		6			◎		
第3章	個人の幸福	1		◎			◎
		2	○				◎
		3	○				◎
		4		○			◎
第4章	消費者としての責任感	1		◎	○	◎	○
		2					◎
		3	◎				◎
		4	○	○	◎		◎
		5					◎
第5章	金銭 信販	1				◎	◎
		2				○	◎
		3			◎		◎
第6章	キャリア形成	1	○		○	○	◎
		2			○	◎	○
		3			○	◎	
		4	◎	○		◎	

本書では、大まかに将来についての出来事から見通しを持たせ、働くことを前提とし、様々な職業があることを示している。次に生活と職業を意識させた「キャリア統合」の内容と、数ある職業から今の自分を見つめ適性があるかどうか「自己理解」を深めさせる。更に、他者との関わりで、互いに話を聴き合う「人間関係」の中で、他者理解を深めていく。ここでの「人間関係」は、特に家族、友人がメインであり、かかわり方として、もめごとの解決方法を学び、人との交流方法についても習得する。最後に、職業について考え、行動すべき方法として仕事に就くための方法を知り、自分で開拓し「就業開発」を自らが実行できるように促すという流れになっていた。

また、「意思決定」については、ライフキャリア関連語としての回数が少ないものの、教科書全ての内容に、「(あなたなら)どうすべきか」という、実践的な問題に関する問いかけの形が記載されており、考えさせるようになっている。正解は用意されておらず、思考の手だてとして個人だけではなく、グルー

プでの活動も促されている。こうして、「意思決定」は、関連語としては記載されていないものの、周りの意見を聴き、情報収集した上で決定していくのは自分であることを示していた。

さらに、能力領域においては、「就業開発」「意思決定」「キャリア統合」といった能力を重視し6領域をバランスよく取り入れていた。

### 3. 1. 4. 日米家庭科教科書をライフキャリアの視点より考察

比較分析から得られた結果として、中学校「新しい技術・家庭 家庭分野」(東京書籍)、高等学校「家庭科基礎」(東京書籍)では、「キャリア統合」に関わる「生活実践」と「自己理解」「人間関係」などに重点が置かれている。「キャリア統合」は前半、または中間を挟んでの前半と後半に位置づけられている。一方、「Shaping Your Future」では、「就業開発」「意思決定」「キャリア統合」といった能力を重視し、6領域をバランスよく取り入れていた。

日米の家庭科教科書を比較して考察できること

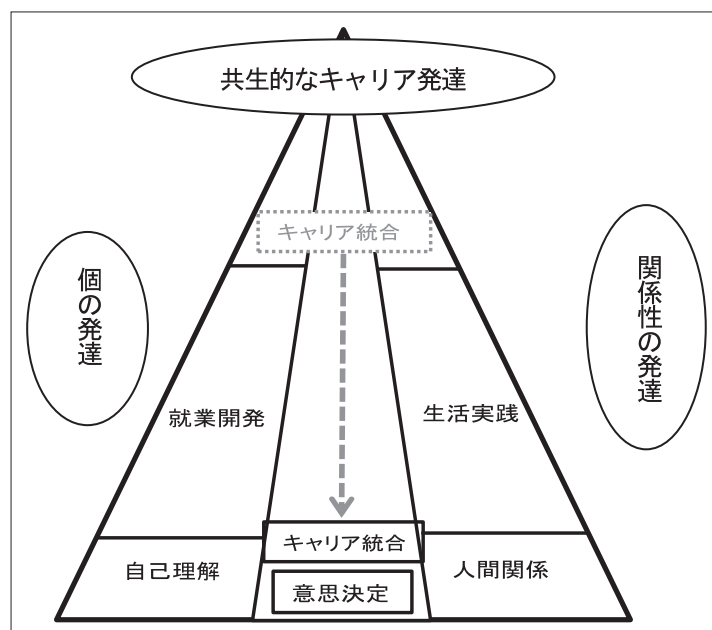


図1 ライフキャリア教育で育成すべき能力領域の構造化モデル (河崎, 2011) 筆者一部修正

表4 ライフキャリア教育における授業プログラムの枠組み (案)

	領域	単元名
1	意思決定・キャリア統合	将来のビジョンを描こう
2	自己理解	自分を見つめよう
3	人間関係	関係性をみがこう
4	生活実践	生活を創造しよう (消費者・生活者として)
5	就業開発	仕事を創造しよう
6	キャリア統合	ライフキャリアを統合的にデザインしよう

は、日本では、「キャリア統合」を学び、「自己理解」を基盤として衣食住の場面から人間関係の中での自分の役割や人間の成長発達（幼児・子ども）と家族の関わりを学ぶ。後半は、生活していく上で必要とされる消費者としての生活実践について学ぶことに留まっている。

一方、米国では「キャリア統合」の考え方と、それに関わる「生活実践」、「就業開発」、「自己理解」「人間関係」は密接に関連しており、常に「意思決定」を促し、ライフキャリアに関する能力の6つの領域をバランス良く取り入れていることが分かった。

### 3. 1. 5. ライフキャリア教育で育成すべき構造化モデルの再考

これまでの家庭科教科分析から得られた知見を基に、ライフキャリアに関する能力の6つの領域すべてを取り入れられている米国の家庭科教科書を土台とし、構造化モデルを再考した。また、日本の家庭科教科書の前半と後半で構築されていた「キャリア統合」の順序性を残した。

さらに米国の家庭科の教科書で特徴的であった「意思決定」の能力領域の必要性を併せるために、「キャリア統合」を、基礎部分に移動し、ライフキャリア教育で育成すべき構造化モデルを一部修正した（図1）。

### 3. 1. 6. 授業プログラムの枠組み

修正した構造化モデルをもとに、日米教科書の単元名を参考にしながら、高校・大学における実践を視野に入れた、ライフキャリア教育における授業プログラム（案）を構想した（表4）。

第1領域は、「意思決定」「キャリア統合」では、将来へのイメージから生活基盤をもたせることを目的とし、単元名は「将来のビジョンを描こう」とした。第2領域「自己理解」は、自分の性格について分析して生活への適応をもたせるため、単元名「自分を見つめよう」とした。第3領域「人間関係」は、コミュニケーション技術を習得し周りとの関係性を保たせるため、単元名は「関係性をみがこう」とした。第4領域「生活実践」は、消費者と生活者の立場から生活に発展性をもたせるため、単元名は「生活を創造しよう（消費者・生活者として）」とした。第5領域「就業開発」は、働くことを自ら選択し行動できるようにするため、単元名は「仕事を創造しよう」とした。第6領域「キャリア統合」は、これまでの学びを将来の生活や人生と統合させ自由に計画させるため、単元名は「ライフキャリアを統合的にデザインしよう」とした。

構想した授業プログラム（案）は、授業実践の際に、学校の状況等に対応した柔軟なプログラム改善

が図られることが期待される。

## 4. まとめ

本研究では、キャリア教育の在り方をライフキャリアの視点より考察し、ライフキャリア教育実践に向けて、授業プログラムの枠組みを構築することを目的とした。

日本の家庭科では「自己理解」、「人間関係」、「生活実践」に重点が置かれていた。前半に「自己理解」を基盤とし「人間関係」において、自分の役割や人間の成長発達と家族との関わりを伝え、後半に、生活するための消費者として「生活実践」を学ぶことに留まっていた。一方、米国の家庭科では、日本で重点が置かれていた内容に加えて「意思決定」「就業開発」「キャリア統合」の能力領域も含められており、総合的にライフキャリアに関する能力育成を目指しているという特徴が認められた。得られた知見を基に、プログラムの順序性を見出し、授業プログラムの枠組み（案）を構築した。

本研究で得られたことを、今後は授業プログラムの枠組み（案）を基に、授業プログラムの開発を行い、授業実践に繋げたい。

## 参考文献

- 磯崎尚子・家城潤子（2006）アメリカの家庭科教育におけるキャリアに関する研究：科書分析を中心として．富山大学人間発達科学部紀要，1（1）：139-147
- Eubanks, E., Sasse, C.R., and Glasson (2000) *Shaping Your Future*. Glencoe/McGraw-Hill
- 林未和子（2002）現代アメリカ家庭科カリキュラムに関する研究．風間書房
- 林未和子（2000）米国の家庭科ナショナルスタンダードにみられる「実践問題アプローチの影響」日本教科教育学会誌，23（3）
- 法政大学産学連携3D教育プロジェクト（2014）制作・著作「働く力育成教材ビデオ」
- 兵庫県教育委員会．使用教科用図書採択一覧 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/kyokasyo/23siryu/22tyugakko-saitaku.pdf>（2016. 1. 30アクセス）
- 片田江綾子（2000）アメリカにおけるキャリアに関する教育．お茶の水女子大学人文科学紀要，53，473-387
- 河崎智恵（2000）家庭科におけるキャリア教育モデルの開発」日本教科教育学会誌 23（1），67-75
- 河崎智恵（2011）ライフキャリア教育における能力領域の構造化とカリキュラムモデルの作成．キャリア教育研究，29，57-69

国立教育研究所（2005）家庭科のカリキュラムの改善に関する研究－諸外国の動向－アメリカ合衆国

牧野カツコ・河野公子他（2013）高等学校家庭科用文部科学省検定済教科書 家庭基礎．東京書籍株式会社

文部科学省（2012）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm)（2016. 1 .15 アクセス）

*National Association of State Administrators for Family and Consumer Sciences*, 1998, *National Standard for Family and Consumer*

*Science Educations*.

奈良県教育委員会，使用教科書図書一覧

[www.pref.nara.jp/secure/39251/h28kyoukasho.pdf](http://www.pref.nara.jp/secure/39251/h28kyoukasho.pdf), (2016. 1 .30アクセス)

佐藤文子・金子佳代子他（2012）中学校技術・家庭科用文部科学省検定済教科書 新しい技術・家庭 家庭分野．東京書籍株式会社

Sunny Sundal Hansen(1997)*Integrative life planning : Critical tasks for career development and changing life pattern.*

#### 付記

本研究の一部は、JSPS科学研究費「15H03500」（代表：河崎智恵）の助成を受けたものです。